



その点検漏れ、修理代で返ってきます。トラック日常点検で損失を防ぐ方法

【記事の要点3つ】

- ☑ トラックの日常点検は、タイヤ・灯火類・エンジン周辺などの異常を早期発見し、事故や高額修理を防ぐために毎日必要な業務である。
- ☑ 日常点検を怠ると、行政処分や重大事故につながる可能性があり、修理費・配送遅延・会社信用低下など大きな損失を招くリスクがある。
- ☑ 紙やエクセル管理には記入漏れや確認負担の課題があり、スマホアプリ「スマトラ」を活用することで、点検記録・共有・未実施防止を効率化できる。

本記事では、トラックの日常点検の重要性と、点検管理を効率化する方法について解説している。日常点検は単なる記録作業ではなく、車両の小さな異常を早期に発見し、大きな故障や事故を防ぐために欠かせない業務である。点検では、タイヤの空気圧や損傷、灯火類の点灯状況、エンジンオイルや冷却水の状態などを確認する。事業用トラックは長距離走行や重量物輸送によって負荷が大きいため、毎日の確認が必要とされている。小さな異常を放置すると、修理費の増加や車両停止による業務損失につながる可能性がある。

また、近年はトラック本体や部品価格の高騰が進んでおり、車両を長く安全に使用するためにも日常点検の重要性が高まっている。故障後に修理するより、早期整備によってコストを抑えるほうが現実的であると説明している。

記事では、日常点検を未実施のまま運行した場合のリスクにも触れている。未実施が発覚すると行政処分の対象となる可能性があり、さらに点検不足が原因で車輪脱落や車両火災などの重大事故につながるケースもある。事故発生時には修理費だけでなく、配送遅延や荷主対応、会社の信用低下といった大きな影響も発生する。

さらに、日常点検と3か月・12か月点検の違いについても整理している。日常点検は「今日安全に走れるか」を確認する毎日のチェックであり、定期点検は車両全体の劣化や摩耗を計画的に確認する役割を持つ。両者は役割が異なるため、どちらも必要であると説明している。

後半では、紙やエクセルによる点検管理の課題を紹介している。紙は現場で使いやすく、エクセルは一覧管理しやすい一方で、記入漏れや未提出の把握、情報共有に手間がかかりやすいという問題がある。

その解決策として、スマホで日常点検を行える「スマトラ」が紹介されている。スマトラでは、点検結果をスマホから入力・共有でき、PDFやCSV出力にも対応しているため、紙の回収や転記作業を減らしやすい。誰が・いつ・どの車両を点検したかも管理しやすく、未実施防止や業務効率化につながる点が特長として挙げられている。

元の記事を読む



株式会社タイガー
東京都千代田区神田猿楽町 2-1-14 A&Xビル 2F
<https://www.tiger-inc.co.jp/>
03-5283-7232

物流ソリューションエキスパート

